

自然と文化科 班別活動 活動記録

日時	2024 年 1 月 12 日（金）10：00～15：00	担 当 者
場所	1 班 航空自衛隊幹部候補生学校見学と平城京散策 2 班 昆陽池で野鳥観察&植物観察・伊丹市昆虫館見学・新年会 3 班 伊丹市昆虫館見学・植物観察・昼食会 4 班 伊丹市昆虫館見学・野鳥観察と猪名神社初詣・白雪長寿蔵食事会	文：原 司 写真：藤本純子
備考	参加者数 69 名（1 班・17 名、2 班・19 名、3 班・17 名、4 班・16 名） 天候：晴れ	

（3 班の活動）

◆伊丹市昆虫館 10:30 集合、4 班と合流して企画展「モズのはやにえリターンズ」を企画した学芸員野本康太さんのガイドにより展示を見学

① 10 倍の森（10 倍模型による昆虫の生態展）、ビッグビー（ミツバチの 100 倍模型で見る体のしくみ）

② チョウ温室（熱帯・亜熱帯のめずらしい花や木々が茂る中を多種のチョウが飛び交う）

③ 企画展「モズのはやにえリターンズ」 なぜモズははやにえをするのか？ 20 年来の研究成果が実って 2019 年に大発見があった。はやにえをたくさん食べたオスはそのエネルギーでより早口で歌うことができ、メスにモテモテになって繁殖に有利になる。そのための栄養食だった。オスのモズは、ヒバリやシジュウカラ、スズメなどさまざまな鳥の声でさえずることができ、そのレパートリーの多彩なオスほどメスに好まれるという。はやにえはそう珍しいものではなく、その気になって探せば結構見つけれられるとのこと。また、モズははやにえという不思議な生態から、古く万葉集に歌われ、俳句や絵画の題材とされたほか、地名にもなった。

ガイド終了後、館内の自由見学をし、11：20 頃見学終了

◆3 班は、バス停までの昆陽池公園内の道中を遊上さんのリードで植物観察。シラカシ・アラカシ・ウバメガシのまぜ垣、ヤマブキの叢生、気根で伸び行くフユツタ、枝のかたちで蔓性の要素を持つナワシログミ、エノキの板根、トベラとシャリンバイの見分け方、アベマキの小枝の白さは冬芽の毛の色など、短い小径の中にたくさんの発見があった。

◆バスで移動して 12：40 ころから白雪ブルワリーレストランで昼食会

14：00 ころ終了、班別活動は一旦解散。希望者のみレストラン 2 階の長寿蔵ミュージアムを見学

酒造りの歴史的資料がたくさん展示されていた。



展示パネルから



チョウ温室にて

〈所感〉不思議なモズのはやにえの秘密を学び、外では気軽な植物観察。美味しい料理と美酒を堪能し、酒造りの歴史的資料を閲覧。自然と文化を満喫した一日であった。